



速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

「ひたむきにプレーして」

# みんなの思い集まる

開会式には多くの野球部員の保護者や先生、各地のOBの方が来場し、堂々とグラウンドを行進する野球部員を見守っていた。そのうちの何人かの方に話をうかがうことが出来た。



選手宣誓の時 選抜旗を持つ新谷直弘君(2,6)

東高第3回の卒業生である「関西三亀会」の方も応援に駆けつけ、お話を伺うと、「今日は天気がよくてよかったです。今回の甲子園出場は彦根高校の名前を全国に知らせるまたとない機会だと思っ

たので頑張っ



関西三亀会の皆さん(スタンドで)

てほしい」という母校へのエールのほか、「僕たちが高校生の頃は遅刻しそうな時はお城の石垣を登ったこともあった」など、東高生だった頃の思い出も話してくださった。お話を伺った三亀会の方の中に56年前に野球部員として甲子園に出場された高田春男さんがおられた。高田さんに、「甲子園を東高生が行進する姿を見られてどうですか?」と伺うと、「僕らの時と今では

隔世の感があるように感じた。今の人たちはいろんな所で経験を積んでいるからこういつた場に慣れているんだと思う。僕らは戦後間もない頃で道具も何もなかった頃なので、技術も僕らより遥かに上だろうと思う。まず1回戦突破、一球入魂でひたむきにプレーしてほしい」と、56年ぶりに甲子園に出場する後輩たちに向けて力強いメッセージを送ってくださいました。

また、56年前に東高野球部に所属されていた橋詰豊加さん(大阪府)にもお話を伺うと、「私も野球をやりたいので、高に入りたいが、肩を壊して

しまったので甲子園にはいけなかった。25日はみんなと試合を見に来たいと思います。今日は開会式をどうして見れたかったです。仕事の間に来ました」とおっしゃった。また東高ナインに対して「東高らしい戦いをして。これは勝敗を越えたところにあると思う」と話してくださいました。また「21世紀枠での選出はうれしかった」と微笑まれました。



橋詰さんと記念撮影

野球部員の保護者の方にもお話をうかがった。保護者会の会長で、主将新谷直弘君(2,6)のお父さんは、開会式を見て「感動しました。一言です」。投手の三木啓史君(2,9)のお父さんは「元気がいっぱいの入場行進をしてくれて、感動しました。行進に喜びが溢れていました」と話してくださいました。

顧問の藤田延代先生は「春の陽気に祝福されるようで、生徒達のはつらつと笑顔で行進してくれてとても感激しました。25日は精一杯プレーしてくれると信じています」と微笑まれました。たくさんの方々の思いが詰まった甲子園は、もうすぐそこだ。